

令和6年7月29日 作成

宮古市における 公共交通施策の取組み

宮古市企画部公共交通推進課

浄土ヶ浜
いいイロ
1116

浄土ヶ浜 エターナルグリーン

三陸復興国立公園「浄土ヶ浜」



宮古市の公共交通の概要

【鉄道】

○三陸鉄道リアス線

○JR山田線

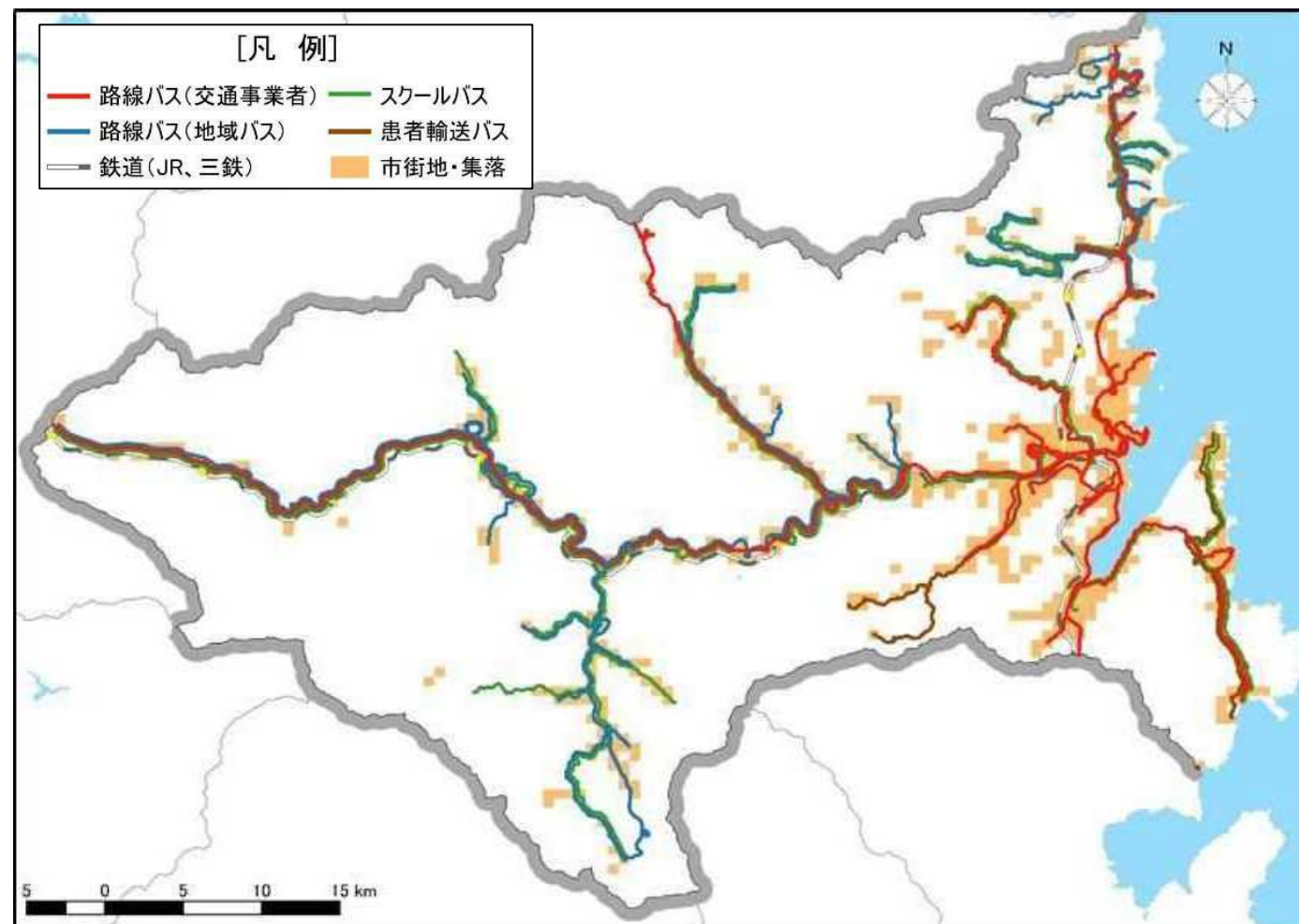
【バス】

(路線バス)

- ・岩手県北バス
- ・東日本交通
- ・田老地域バス
- ・新里地域バス
- ・川井地域バス

(都市間バス)

- ・106急行・特急バス
- ・MEX宮古・盛岡
- ・三陸高速バス



公共交通の人口カバー状況(R4年度末時点)

- 公共交通のカバー人口は48,380人、カバー率は96.1%
- ダイヤや利便性などから、潜在的にはより多くの方が不便を強いられている

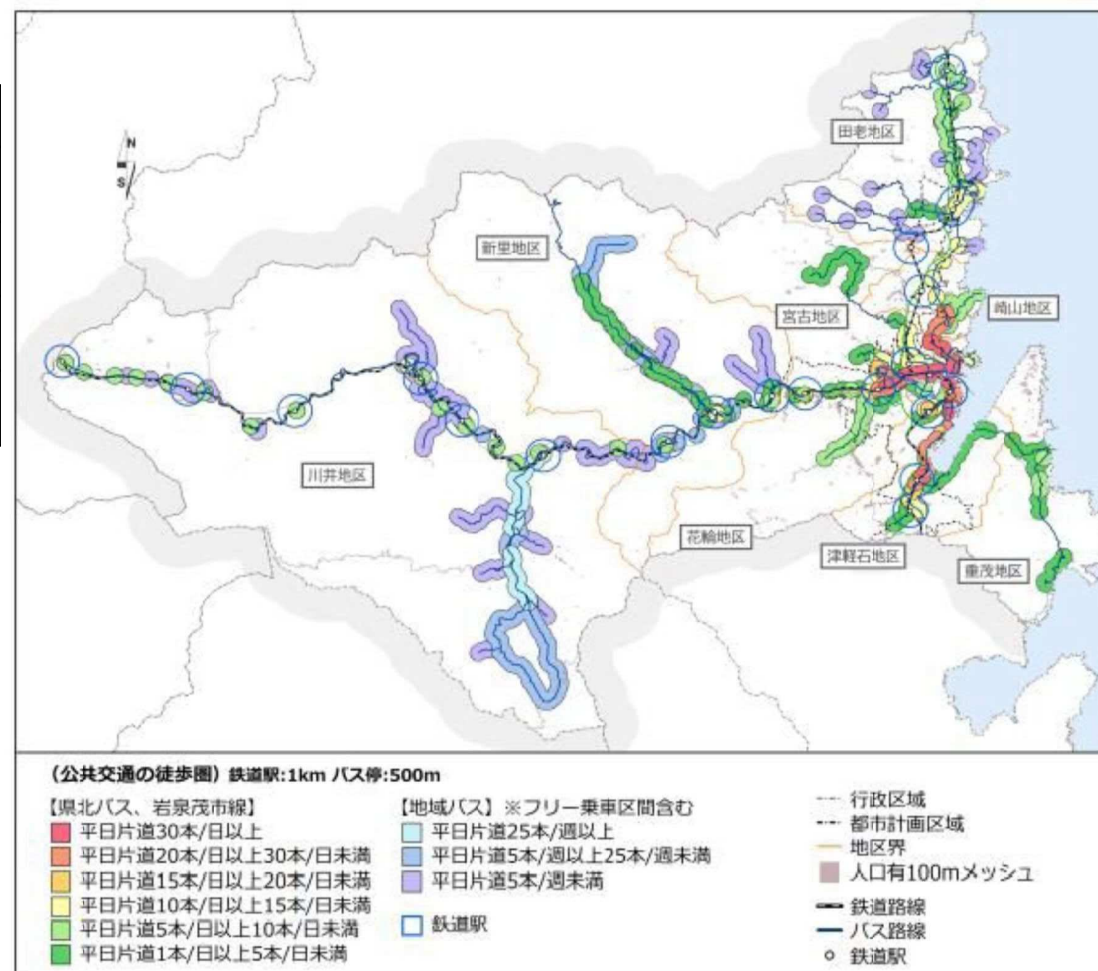
○公共交通カバーの状況

年度	カバー率
R1	94.5%
R2	94.8%
R3	95.9%
R4	96.1%

各種施策によりカバー率は上昇

→公共交通カバー圏に居住する人の中にも、公共交通の運行ダイヤや地形的な要因からアクセスしにくい人がいる
潜在的には3.9%以上の方が公共交通を利用しにくい状況にある

※公共交通カバー人口
バス停から500m以内・鉄道駅から1km
以内に居住、地域バス接続型デマンドタクシー運行地域内



鉄道・バス交通に対する市の財政負担

■鉄道・バス交通に対する財政負担額は、年々増加傾向
→市民1人当たり約6,500円

(単位：千円)

		平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度
三陸鉄道	設備投資補助	10,743	10,597	10,051	12,262	14,010
	設備維持補助	17,739	21,258	26,282	29,070	32,440
	小 計	28,482	31,855	36,333	41,332	46,450
路線バス	県北バス補助金	55,000	55,000	55,000	64,035	79,500
	田老地域バス	—	—	—	—	2,728
	新里地域バス			7,257	13,077	12,156
	川井地域バス	12,337	11,621	13,596	18,902	21,460
	小 計	67,337	66,621	75,853	96,014	115,844
タクシー	デマンド交通委託料	—	—	—	17	0
	地域交通補完補助金	9,000	9,000	9,000	6,800	6,800
	小 計	9,000	9,000	9,000	6,817	6,800
三陸鉄道・路線バス・タクシー 計		104,819	107,476	121,186	144,163	169,094
スクールバス		129,332	127,969	130,042	131,840	142,569
患者輸送バス		19,993	19,428	17,963	13,132	7,543
スクールバス・患者輸送バス 計		149,325	147,397	148,005	144,972	150,112
合 計		254,144	254,873	269,191	289,135	319,206

公共交通の利用状況

■人口減少などに加え、コロナウイルス感染拡大により利用者は減少



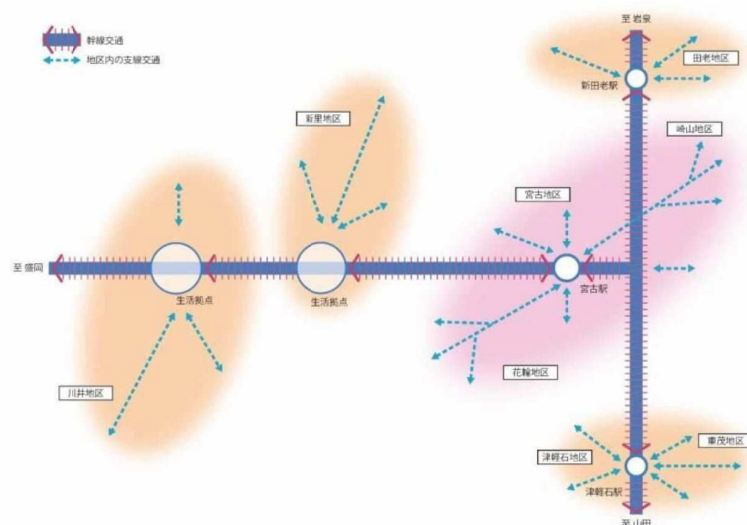
宮古市地域公共交通計画の策定

■持続可能な公共交通体系を構築するためのマスタープランとなる
「宮古市地域公共交通計画」を策定（令和5年10月）

スローガン 「みんなでつくる みんながつながる 公共交通」

- 基本方針
 - ①多様な交通機関が連携し「**広い市域がつながる**」公共交通の実現
 - ②参画と協働による「**みんなでつくる**」公共交通の実現
 - ③みんなで利用し支え「**次の世代につながる**」公共交通の実現

●公共交通体系の考え方



国道・国道と並行して走るバスと鉄道
→「**幹線交通**」

幹線交通を軸として8地区をつなぐ
路線バス等→「**支線交通**」

幹線交通と支線交通で8地区をつなぐ形を
基本

これまでの主な取り組み(交通空白地①)

【コミュニティバス（地域バス）】

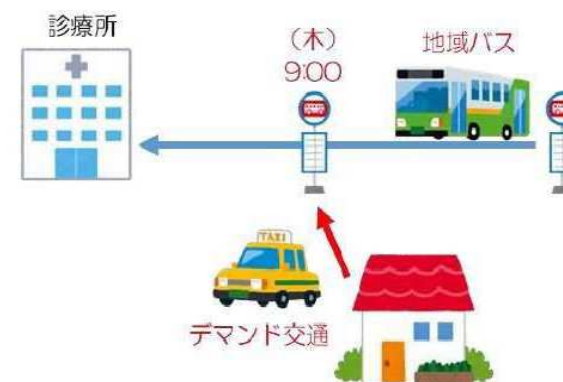
- 新里地域バス「ふれあい号」の運行（R2.10.12運行開始）
 - 川井地域バス「やっほう号」の運行（R3.11.1運行開始）
 - 田老地域バス「たろちゃん号」の運行（R4.12.1運行開始）
- 既存の患者輸送バスを誰もが利用できるよう、地域バスとして運行を開始
- ・運賃：1回100円（診療で乗降りする方は無料）
 - ・フリー乗降区間の設定
 - ・幹線交通（県北バス・山田線・三陸鉄道）への接続



▲「ふれあい号」の運行車両

【デマンドタクシー】（R3.11.1運行開始）

- 地域バス接続型「デマンドタクシー」の運行
- 地域バスの停留所まで移動が困難な方をタクシー車両で停留所まで送迎



▲デマンドタクシーのイメージ

これまでの主な取り組み(交通空白地②)

【共助型交通】

○住民主体による共助型交通の取り組みが開始、運行体制の構築や運行経費を支援

①田代地区（宮古）

- ・地域住民がテスト運行を経て「田代カーシェア会」を立ち上げ（R5.3月）
- ・リース車両を使い、運転手は地域住民がボランティアで実施

②門馬地区

- ・地域住民が「門馬地域送迎チーム」を立ち上げ無償運行を実施（R4.5月）
→R6.4月から自家用有償旅客運送を開始
- ・門馬地区内の移動だけでなく、幹線交通との接続を図る

（運行経費への支援）

地域住民を主体とする共助型交通を伴走支援するもの

- ・補助対象経費：車両リース料、車両修繕料（リース車両に限る）、車両保険料、講習会受講料、法令順守用消耗品（アルコールチェッカーなど）
※ガソリン代や団体運営費（人件費等）など利用者が負担すべき費用は対象外
- ・補助率・上限額：初年度10/10・500千円、2年目3/4・400千円、3年目1/2・250千円
※運行の継続が困難と認められる場合は、補助率を変更することができる

これまでの主な取り組み(利用促進①)

【中学生「バス・三鉄」乗り放題】※R6新規

○市内の中学生を対象に、三陸鉄道と県北バス、地域バスが3ヶ月間乗り放題となる
定期券を配布

乗車機会の創出、乗車方法の習得 → 将来の公共交通利用へ！

【県北バス I Cカード「iGUCA」の普及促進・バスの利用促進】

○県北バスでは、利用者の利便性向上を図るため、地域連携 I Cカード「iGUCA」を導入
→ 「iGUCA」チャージ時のポイント付与（5,000円チャージごとに500ポイント）
高齢者エリア定期券の発行

【JR山田線をお得に利用】

○通勤・通学定期券、回数券への助成

→購入費用の一部を地域商品券「地域通貨リアス」で助成

○山田線を利用したツアーの実施

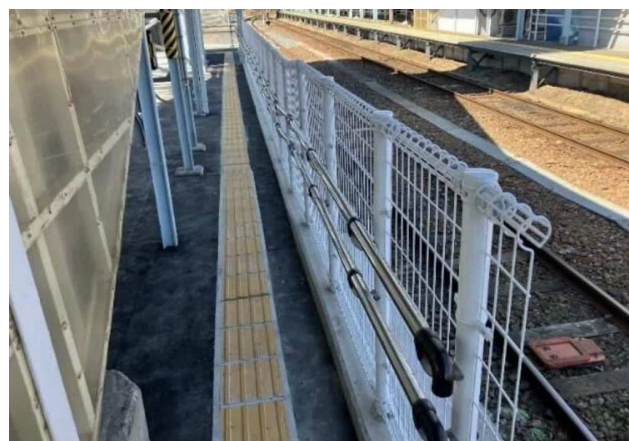
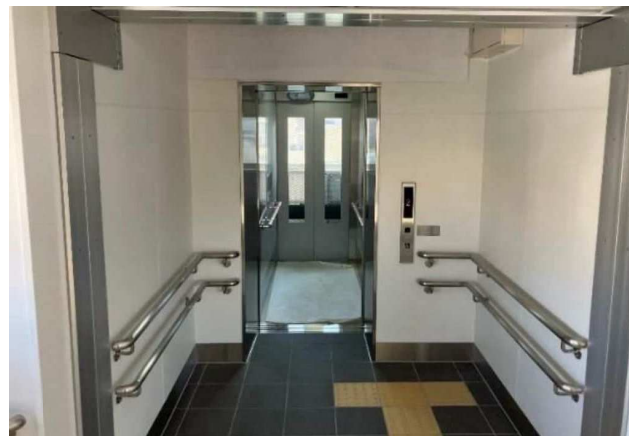
- ・ 閉伊川流域の地域資源を活用（川の生き物観察、トレッキングなど）
- ・ 市内イベント（真鱈まつり、毛ガニまつりなど）に合わせたツアー
- ・ 盛岡近郊のイベントなどに合わせたツアー（さんさ踊りなど）

これまでの主な取り組み(利用促進②)

【宮古駅のバリアフリー化】

○宮古駅の既存跨線橋にエレベーターを設置（2基・11人乗り）

→令和6年3月26日供用開始



1 計画の概要

(1) 計画の趣旨

公共交通は、通学、通院、買物など市民の日常生活に欠くことのできない移動手段であるとともに、地域間交流の促進を図る上でも重要な役割を担っています。

しかし、人口減少、少子高齢化、マイカー利用の増加などにより公共交通の利用者は低迷を続けています。さらに、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により利用者は大幅に減少しています。

公共交通の検証と見直しを行うとともに、市、交通事業者、関係機関と市民が連携し、地域に必要な公共交通ネットワークの構築を進める必要があります。

こうした背景を踏まえ、人口減少などの社会経済情勢の変化に対応するとともに、将来を見据えた持続可能な公共交通体系を構築するため、そのマスタープランとなる「宮古市地域公共交通計画」を策定するものです。

(2) 計画の区域・期間

- 計画の区域：宮古市全域
- 計画の期間：令和5年度から令和11年度の7年間

(3) 宮古市の現況

- 公共交通の人口カバー状況（令和2年国勢調査結果を基に算出）
公共交通カバー人口：48,380人 公共交通カバー率：96.1%
※公共交通カバー圏：バス停から500m以内、鉄道駅から1km以内、
地域バス接続型デマンドタクシー運行地域内
- 公共交通に対する市の支援状況
令和4年度の支援状況：約3.2億円
市民1人当たりが約6,500円を負担していることに相当
- 公共交通の利用状況
人口減少、少子高齢化、マイカー利用の増加に加え、コロナウイルス感染症拡大の影響により減少

(4) 宮古市の課題

- 課題1 広い市域の中での公共交通の効率化
- 課題2 公共交通空白地における移動手段の確保
- 課題3 利用者の低迷と公共交通の衰退
- 課題4 ハードとソフトの両面からの利用環境の改善

(5) 宮古市地域公共交通計画

みんなでつくる みんながつながる 公共交通

基本方針1

多様な交通機関が連携し「広い市域がつながる」公共交通の実現

基本方針2

参画と協働による「みんなでつくる」公共交通の実現

基本方針3

みんなで利用し支え「次の世代につながる」公共交通の実現

目標1 市民生活を支える持続可能な交通体系の構築

- ・公共交通により外出することができる環境整備
- ・輸送資源を総動員し、持続可能な交通体系の構築
- ・脱炭素・低炭素の取り組みを進める

目標2 ニーズに合った交通ネットワークの形成

- ・利用状況や住民ニーズに適合した公共交通ネットワーク
- ・住民のスムーズな移動の確保
- ・利用状況や住民ニーズの積極的な把握

目標3 地域公共交通の利用拡大に向けた環境整備

- ・交通事業者、関係団体、市民、市が一体となった利用促進
- ・観光客が円滑に移動できる利用環境の整備

2 宮古市地域公共交通計画に対する評価

目標ごとに現状値（令和6年度）、目標値（令和11年度）を比較した評価、これまで実施してきた取り組み、今後取り組むべき課題を整理しました。

目標1 市民生活を支える持続可能な公共交通体系の構築

事業計画		施策1 幹線、支線交通の確保・維持（交通事業者） 施策2 公共交通の効率化 施策3 公共交通空白地への対応 施策4 脱炭素化・低炭素化に向けた取組			
指標	基準値		現状値		令和11年度 目標値 (達成率)
	令和元年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
公共交通力バー率	94.5%	96.1%	96.1%		100%
路線バス（岩手県北自動車運行路線） の収支率	53.6%	39.3%	非公表		

施策	実施内容	実施年度	
		R5	R6
【施策1】 幹線、支線 交通の確保、 維持	①交通ネットワークの維持・確保に向けた支援 (1)市内路線バスへの支援（市、県） 市内路線バスの運行を維持・確保するため、不採算路線等に対し支援した。 ※対象路線：生活交通路線：廃止代替路線 岩船、田代、八木沢団地、松山、長沢六組の5路線 不採算路線 市内路線のうち、赤字路線について予算の範囲内で補助（R6:32路線） 広域生活路線：茂市線（宮古駅前～ゆったり館） (2)三陸鉄道への運営に係る支援（市、県、三陸鉄道沿線市町村） 三陸鉄道の安定した運営を確保するため、設備維持（修繕費、設備保守等人件費など）の費用に対し支援した。	○	○
	②鉄道の安全安定輸送の実現 (1)三陸鉄道の設備改修等の実施（鉄道事業者、市、県、三陸鉄道沿線市町村） 三陸鉄道は安全輸送を図るため、設備改修や更新等を実施。県や沿線市町村は、その経費に対し支援した。 ※内容：橋りょう改修、トンネル改修、枕木のPC化、通信ケーブル更新・増設など (2)JR山田線の保守工事の実施（鉄道事業者） JR盛岡支社は山田線の安全安定輸送を図るため、昼間集中工事を実施。※R6実施時期：4～6月	○	○

施策	実施内容	実施年度																											
		R 5	R 6																										
【施策 1】 幹線、支線 交通の確保、 維持	③【拡充】広域路線バス（地域間幹線系統）の維持確保・効率化 (1)田老方面のバス路線の再編(R5. 12月実施)(バス事業者・市・岩泉町) 利用者が減少する小本線（宮古駅前～岩泉小本駅前）について、道の駅たろうを乗継拠点に位置づけ、田老線と重複する区間の集約を行った。※利便増進事業に位置付け (2)広域・幹線的路線への支援（国・県・市） 広域的・幹線的路線を確保するため、国と県が協調して支援した。 市は、田老小本線（R 6 支援開始）の国・県補助充当後の欠損分を岩泉町と協調して補助した。 ※R 6 国庫対象路線：田老小本線、田老線、田の浜線、106急行バス																												
	再編前 <table><tr><th>路線</th><th>補助</th></tr><tr><td>田老線 (ふれあい荘経由)</td><td>地域間 幹線系統</td></tr><tr><td>田老線</td><td>補助なし</td></tr><tr><td>小本線</td><td>地域間 幹線系統</td></tr><tr><th colspan="2">運行回数（平日）</th></tr><tr><td>宮古駅前～ 三王三丁目</td><td>12回</td></tr><tr><td>三王三丁目～ 岩泉小本駅前</td><td>7回</td></tr></table> ➡ 再編後 <table><tr><th>路線</th><th>補助</th></tr><tr><td>田老線 (ふれあい荘経由)</td><td rowspan="3">地域間 幹線系統</td></tr><tr><td>田老線</td></tr><tr><td>田老小本線</td></tr><tr><th colspan="2">運行回数（平日）</th></tr><tr><td>宮古駅前～ 三王三丁目</td><td>11回</td></tr><tr><td>道の駅たろう～ 岩泉小本駅前</td><td>3回</td></tr></table> 実施前 実施後	路線	補助	田老線 (ふれあい荘経由)	地域間 幹線系統	田老線	補助なし	小本線	地域間 幹線系統	運行回数（平日）		宮古駅前～ 三王三丁目	12回	三王三丁目～ 岩泉小本駅前	7回	路線	補助	田老線 (ふれあい荘経由)	地域間 幹線系統	田老線	田老小本線	運行回数（平日）		宮古駅前～ 三王三丁目	11回	道の駅たろう～ 岩泉小本駅前	3回	○	○
	路線	補助																											
	田老線 (ふれあい荘経由)	地域間 幹線系統																											
	田老線	補助なし																											
小本線	地域間 幹線系統																												
運行回数（平日）																													
宮古駅前～ 三王三丁目	12回																												
三王三丁目～ 岩泉小本駅前	7回																												
路線	補助																												
田老線 (ふれあい荘経由)	地域間 幹線系統																												
田老線																													
田老小本線																													
運行回数（平日）																													
宮古駅前～ 三王三丁目	11回																												
道の駅たろう～ 岩泉小本駅前	3回																												
	④【燃油高騰関係】交通事業者への運行支援（市、県） ・燃油価格・物価高騰の影響により厳しい経営状況にあるバス、タクシーの安定した運行を維持するため、事業者に対し支援した。	○	○																										
	⑤【終了】【コロナ関係】新型コロナワクチン接種者のタクシー送迎（市、タクシー事業者） ・新型コロナワクチン接種に係る高齢者等の移動手段を確保するため、自宅から接種会場までのタクシー送迎を実施した。 ※対象者：65歳以上の方、障がい者、要介護者、妊産婦 ※R 5 利用件数：6,827件（R 4 利用件数：8,808件）	○																											



施策	実施内容	実施年度	
		R 5	R 6
【施策2】 公共交通の 効率化	①通学時の路線バスの活用（バス事業者、市） ・磯鷄小学校と藤原小学校の統合により、小山田地区から磯鷄小学校に通学する児童が、路線バスによる通学を行った。 夏期と冬期で運行時間を変更するなど、柔軟な対応をしている。 ※R 6 対象児童数：21名		○ ○
	①地域バス（コミュニティバス）の運行（市） ・公共交通が利用しにくい地域において、地域住民の移動手段の確保を図るため、地域バスを運行した。 ※R 6 実績：新里地域バス 運行5路線、利用者数3,867人（R 5：4,353人） 川井地域バス 運行11路線、利用者数8,058人（R 5：8,135人） 田老地域バス 運行5路線、利用者数1,704人（R 5：1,531人）		○ ○
【施策3】 公共交通が 利用しにくい 地域への 対応	②地域バス接続型デマンド交通の運行（市、タクシー事業者） ・田老、新里、川井地区において、地域バスの停留所まで移動が困難な方を対象に、タクシー車両を用いたデマンド交通を行った。（R3.11月運行開始）		○ ○
	③【拡充】地域共助型交通の生活交通に対する支援（市、住民）→別添「資料1-1」 ・地域住民の移動手段の確保を図るため、田代地区（宮古）と門馬地区で住民主体による地域共助型交通の取り組みが行われている。 ・市では、地域共助型の生活交通を推進するため、補助制度を創設し運行経費に対する支援を実施。 ・門馬地区ではR 6.4月から有償化へ移行。有償化に向けた取り組みを支援。 ※R 6 実績：田代地区 利用者数135人（R 5：96人） 門馬地区 利用者数602人（R 5：360人）		

施策	実施内容	実施年度		
		R 5	R 6	
【施策 4】 脱炭素化・ 低炭素化に 向けた取り 組み	①グリーンスローモビリティによる地域内輸送（市、住民、交通事業者）→別添「資料1-2」 - 生活需要と観光需要の把握、本格導入運行の課題抽出と可能性を検討するため実証運行を行った。 （対象地区/利用実績） ※R 5 生活利用：鍬ヶ崎地区（118人/9日間）、田老地区（55人/6日間） 観光利用：浄土ヶ浜園地（80人/7日間）、田老・道の駅周辺（55人/11日間） ※R 6 生活利用：田老地区（206人/18日間） 観光利用：田老・道の駅周辺（35人/10日間） （利用者の声） ・有料でも利用したい。 ・グリスロに合わせて予定を立てた。便利だった。 ・道の駅から三王団地まで帰るのが大変。グリスロの運行があるとたくさん買い物ができる。 ・乗り降りしやすくお年寄りに非常に良い。 ・開放感があり、涼しかった。 ・これからも運行してほしい。大変助かっている。 グリーンスローモビリティ： 時速20km未満で走ることができる「電動車を活用」した「小さな移動サービス」であり、その車両も含めた総称		○	○
	②エコ通勤の推進（市） 市職員を対象に、バス・鉄道等の公共交通機関による通勤への転換を促す「エコ通勤チャレンジ」を実施。実施日をノー残業デーに合わせ、毎週水曜日に設定。 ※R 6 実施率：57.9%（R 6に1回以上取り組んだ職員の割合）		○	○
	③パークアンドライドの推進（市、交通事業者） 公共交通の利用促進や二酸化炭素排出量の削減を図るため、パークアンドライドのための駐車場を設置。 ※宮古駅東駐車場、シートピアなあと、千徳駅前、田老駅、墓目バス停、黒沢バス停		○	○
	④【新規】EVバスの導入（交通事業者、市、宮古新電力） - 国土交通省の「共創・MaaS実証プロジェクト」を活用して、EVバス3台を導入。 - 宮古市、宮古新電力、岩手県北自動車、みちのりホールディングス、ケー・シー・エスが共創パートナーとしてプラットフォームを設置。 - 市内を運行する路線バスの車両の一部を電気バスに置き換え、さらに市内の地域新電力から宮古市産太陽光発電電力を含めた電力供給をバス事業者が受け、その電力によって電気バスを運行することで、「電力の地産地消」の実現を目指す。 - 市民へ周知することで、公共交通に対する当事者意識を醸成し、利用者増加に結び付く行動変容を起こして、公共交通の持続性を高めることを目指す。 ※リーフレットを作成し、全戸配布を実施			○

目標指標に対する評価

- ・ 交通事業者への支援により、幹線・支線交通等の公共交通体系が確保された。
- ・ 田老地区、新里地区、川井地区において地域バスを運行したことにより、公共交通空白地の移動手段の確保が図られた。
- ・ 住民が主体となった共助型交通への支援により、公共交通空白地の地域内交通の確保、幹線交通との接続が図られた。
- ・ 田老方面のバスの見直しにより、利用実態に合った運行が図られ、持続可能な運行が図られた。

主な取り組みの成果	今後の課題・方向性
・ 交通事業者への支援により、バス・鉄道が維持され、市民の移動手段が確保された。 ・ 小本線の見直しにより、田老地区におけるバスの効率化及び持続可能な公共交通体系の確保につながった。 ・ 地域バス及びデマンドタクシーの運行により、交通空白地の解消が図られた。 ・ 通学に路線バスを利用することで、バス運行の効率化が図られた。 ・ 燃油高騰で厳しい経営を強いられている交通事業者への支援により、安定した運行が図られた。 ・ 地域住民による共助型交通の取り組みが実施され、地域内輸送が確保された。 ・ EVバスの導入により、脱炭素化に向けた取り組みが進められた。	・ 引き続き、交通事業者への支援を行い、公共交通体系を維持する。ただし、路線の検証・見直しと合わせて取り組むことで、効率的・効果的な支援としていく。 ・ 旧宮古市内においても、公共交通を利用しにくい地域が存在する。地域の特性に合わせた、持続可能な交通確保の在り方を検討し、改善していく。 ・ 地域住民による共助型交通について、他地域でも実施できるよう支援していく。 ・ 引き続き、脱炭素化・低炭素化の推進に向け、事業者と協議を継続する。

目標2 ニーズに合った交通ネットワークの形成

事業計画		施策1 公共交通ネットワークの検証と見直し 施策2 住民ニーズの把握			
指標	基準値		現状値		令和11年度 目標値 (達成率)
	令和2年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
市内公共交通に対する利用環境の満足度	33.9点	38.5点	27.4点	32.3点	50.0点 (65%)

施策	実施内容	実施年度	
		R5	R6
【施策1】 公共交通 ネットワークの 検証と見直し	①地域の実情に合わせた路線バスの見直し（市、バス事業者） （1）路線の見直し ・【再掲】利用実態に基づき、小本線（宮古駅前～岩泉小本駅前）の見直しを実施。 ※道の駅たろうを乗継拠点に位置づけ、田老線と重複する区間の集約を行った。（R5.12月実施） ・地域の要望を踏まえ、岩泉茂市線の見直し（停留所の新設、フリー乗降区間の拡大）を実施。（R6.3月実施） （2）事業者ワーキングの実施 ・事業者ワーキングを実施し、系統ごとの課題と改善策について検討を行った。	○	○
【施策2】 住民ニーズの 把握	①公共交通に関する説明会や意見交換会の実施 ・地域住民のニーズを把握するため、重茂北地区と箱石地区（宮古）において、意見交換を実施した。	○	○

目標指標に対する評価

- ・公共交通に対する利用環境の満足度は低下している。公共交通に対する利用満足度の向上や利用拡大を図るため、地域住民のニーズを把握し、地域の特性に合わせた公共交通体系を構築する必要がある。

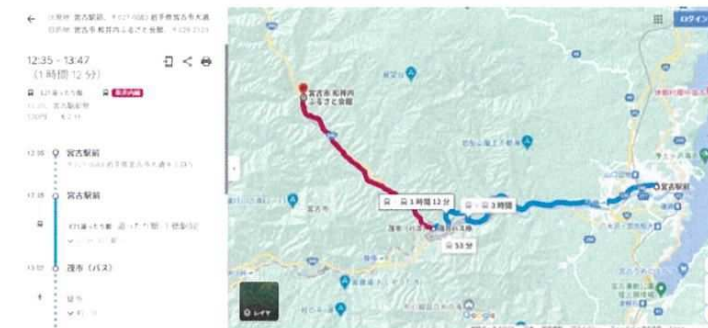
主な取り組みの成果	今後の課題・方向性
・利用実態に合わせ小本線の見直しを実施したことにより、利用実態に合った運行が図られた。 ・地域の要望を踏まえ、岩泉茂市線の見直し（停留所の新設、フリー区間の拡大）を実施したことにより、ニーズに合った交通網の構築が図られた。 ・地域住民との意見交換により、現状の把握や住民ニーズを把握することができた。	・市内路線バスは、運行時間や地域によって著しく利用が少ない路線がある。系統ごとの状況、他の系統との関係、幹線交通との接続状況に留意し、より効率的な手法への移行も視野に入れて改善策を検討する。 ・患者輸送バスから地域バスへ転換してから数年が経過した。曜日や時間、地区によっては著しく利用が少ない状況である。定時定路線による運行だけでなく、利用者の需要に応じて運行するモードへの移行も視野に入れて改善策を検討する。 ・地域住民のニーズを踏まえ、地域の実情に合った公共交通体系を検討する。

目標3 地域公共交通の利用拡大に向けた環境整備

事業計画		施策1 誰もが利用しやすい公共交通環境の整備 施策2 利用促進事業の実施 施策3 公共交通の認知度・理解度を高める			
指標	基準値		現状値		令和11年度 目標値 (達成率)
	令和元年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
路線バス（岩手県北自動車運行路線） の市民1人当たりの年間利用回数	17.4回/人	16.9回/人	21.1回/人	20.6回/人	19.1回/人 (108%)
三陸鉄道市内駅での市民1人当たりの 年間利用回数	5.5回/人	3.8回/人	4.3回/人	4.5回/人	4.2回/人 (107%)
JR山田線の平均通過人員	174人/日	79人/日	87人/日	未公表	191人/日
タクシーの市民1人当たりの年間利用 回数	8.0回/人	5.8回/人	6.0回/人	5.5回/人	8.8回/人 (63%)
地域バスの地区住民1人当たりの年間 利用回数（田老地区）		0.2回/人	0.6回/人	0.7回/人	1.0回/人 (70%)
地域バスの地区住民1人当たりの年間 利用回数（新里地区）		2.0回/人	1.9回/人	1.8回/人	2.2回/人 (82%)
地域バスの地区住民1人当たりの年間 利用回数（川井地区）		3.6回/人	4.2回/人	4.3回/人	4.0回/人 (108%)
三陸鉄道観光団体利用者数	49,160人	29,628人	31,409人	32,269人	68,000人 (47%)

施策	実施内容	実施年度	
		R5	R6
【施策1】 誰もが利用 しやすい公 共交通環境 の整備	①【完了】宮古駅のバリアフリー化の実施（市・鉄道事業者） ・利便性向上のため、宮古駅構内の跨線橋にエレベーターを設置。 （11乗り・2基）（令和6年3月供用開始） ※R6エレベーター稼働回数：11,372回		

施策	実施内容	実施年度	
		R 5	R 6
【施策 1】 誰もが利用 しやすい公 共交通環境 の整備	②八木沢・宮古短大駅アクセス路の整備（市・鉄道事業者） ・河南地区側から駅ホームへの移動を容易にするため、アクセス路の整備を進めた。 ※R 5：詳細設計 ※R 6：国庫補助の要件となる計画の策定（三陸鉄道沿線地域等公共交通計画、鉄道再構築実施計画）	○	○
	③バスロケーションシステムの運用（バス事業者、市） ・岩手県北自動車は、路線バスの運行情報を確認できる、バスロケーションシステムを導入。（R3.2月運用開始） ・運行情報は携帯電話等から確認できるほか、宮古市市民交流センターと宮古駅前待合室に、運行情報を表示するサイネージを設置し、利便性の向上を図った。	○	○
	④三鉄アプリの運用（鉄道事業者） ・三陸鉄道の時刻表や列車の現在位置を確認できるアプリを運用。	○	○
	⑤標準的なバスフォーマットによるオープンデータ化の推進（市、バス事業者） ・路線バスや地域バスの運行データを世界標準のデータ形式であるGTFS形式に変換し、既存の乗換案内サービスや地図サービス等において公開。 ・運行経路の見直しやダイヤ改正に合わせ運行データを更新し、利用者に分かりやすい情報の発信を行った。	○	○
	⑥地域連携ICカード「iGUCA」の普及促進 ・岩手県北自動車は、利用者と交通事業者双方の利便性向上を図るため、地域連携ICカードを導入。（R4.2月開始） ・地域連携ICカード「iGUCA」の普及促進や路線バスの利用促進を図るため、チャージ時に福祉ポイントを付与。 ※R 6付与件数：4,273件（R 5：2,947件）	○	○
	⑦沿線イベント開催日の「快速リアス」臨時停車（鉄道事業者） ・区界高原雪のゆうえんちの開催日に、山田線を利用してイベントに参加できるよう、快速リアスを区界駅に停車。 ※R 6区界駅利用者数：122名（R 5：65名）	○	○



施策	実施内容	実施年度	
		R 5	R 6
【施策2】 利用促進事業の実施	①高齢者エリア定期券の販売（市、バス事業者） ・市内の一般路線バスが乗り放題となるフリー乗車券をバス事業者と連携し販売。（R2.12月販売開始） ※対象者：70歳以上または免許返納者 ※R 6 販売実績：673枚（R 5：630枚）	○	○
	②【拡充】J R山田線利用促進の実施 （1）市内イベント等に合わせた、臨時列車運行（鉄道事業者、宮古市観光文化交流協会、市） ・J R盛岡支社が市内イベント等に合わせ運行した臨時列車に対し、会場までの二次交通の確保、お振舞等を実施した。 ※R 6 実績：回数6回/臨時列車乗車数557名（R 5：回数9回/臨時列車乗車数645名） - R 6 内容：「ポケモントレイン宮古号」 「観光キャンペーンオープニング」 「宮古真鱈号」 「宮古毛ガニ号」 （2）定期券等購入に係る助成 ・山田線の通学定期券や通勤定期券等を購入した市民に対し、地域商品券により、購入費の一部を助成。 ※R 6 助成件数：56件（R 5：49件） （3）閉伊川流域の観光資源を活用したツアー ・閉伊川流域の地域振興及び山田線の利用促進を図るため、閉伊川流域の観光資源を活用したツアーを実施した。 ※R 6 実績：5回/参加者数109名（R 5：5回/参加者数73名） - R 6 内容：「閉伊川の生き物観察&水辺の安全教室」 「レールトレッキング&こびりづくり体験」 「E-BIKEで秋巡り&そば打ち体験」 「秋の紅葉&鞭牛ロード巡り」 「区界高原 雪のゆうえんち」 （4）【新規】盛岡市を目的地としたツアー ・山田線の利用促進を図るため、盛岡市内を目的地とする山田線ツアーを実施した。 ※R 6 実績：3回/参加者数30名 - R 6 内容：「盛岡まち歩き&さんさ踊りパレード見学」 「歴史を感じる上盛岡ひと駅まち歩き」 「春の訪れを感じる盛岡まち歩き」	○	○



施策	実施内容	実施年度	
		R 5	R 6
【施策2】 利用促進事業の実施	③タクシー受取代行サービスの実施（タクシー事業者、市） ・コロナ禍で利用者が減少しているタクシー事業及び飲食店の利用拡大を図るため、タクシー車両でテイクアウト商品を自宅まで届ける受取代行サービスを実施。（R2.6.15事業開始） ・令和3年9月からインターネットから商品を注文できるシステムの運用を開始した。 ※R 6 利用件数：25件（R 5：904件）	○	○
	④路線バスツアーの実施 ・路線バスに対する市民の関心を高め、利用者の増加につなげるため、路線バスを利用した日帰りツアーを実施。 R 6 実績：回数4回/参加者数47名（R 5：回数3回/参加者数56名） R 6 内容：「山田湾養殖いかだ見学ツアー」 「鯨ヶ崎元気市散策とうみねこ丸乗船ツアー」 「螺鈿体験と北上山地民俗資料館」 「みちのく潮風トレイル宮古ショートコース」	○	○
	⑤【新規】中学生フリー定期券交付実証事業→別添「資料1-3」 ・路線バス、三陸鉄道の乗車機会の創出や中学校卒業後の公共交通機関の利用定着を図るため、事業者と連携し、市内中学生にフリー定期券を交付。（7月～9月実施） ※R 6 利用実績：岩手県北バス3,211名/三陸鉄道486名 ※事前アンケート結果 ・約4割の生徒が乗り方を知らない。約3割が利用したことがない。「保護者の送迎」が主となっている。 ・公共交通を利用しない理由として、「保護者の送迎」のほかに「利用方法が分からない」という回答も多い。 ※事後アンケート結果 ・フリー定期券の実施期間中、生徒の75%がバス・鉄道の利用が増えた。約半数は「外出の機会が増えた」。 ・「乗り方を覚えた」という回答も多い。卒業後、約4割が定期券でバス・鉄道を利用したいと回答。	○	○
	⑥【新規】山田線、106バスの共同実証運行（鉄道事業者、バス事業者） ・JR盛岡支社と岩手県北自動車は、公共交通の利用促進及び岩手県央地域と沿岸地域の利便性向上の検証を目的に、山田線盛岡駅～宮古駅間（上盛岡駅、山岸駅、上米内駅を除く）を有効区間とするJRの乗車券類で106特急・急行バスを利用できる実証実験を行った。（R6.4.1～R7.3.31） ・令和7年2月に独占禁止法特例法に基づく共同経営の認可を取得したことにより、令和7年度からJRの乗車券類で106特急・急行バスを利用できる仕組みを継続実施することが可能となった。	○	○



施策	実施内容	実施年度	
		R 5	R 6
【施策2】 利用促進事業の実施	⑦外国人来訪者への対応（鉄道事業者・市） ・宮古港に外国客船が入港した際に、三陸鉄道で目的地までスムーズに移動できるよう対応。 ※内容：磯鶏駅への駅員の派遣、個人観光客用のバウチャー券の発売、定期列車の増結対応		○
【施策3】 公共交通の認知度・理解度を高める	①乗車機会の創出（市・バス事業者・鉄道事業者） (1)公共交通まつり、三陸鉄道車両基地まつりの開催 ・公共交通に親しんでもらうため、公共交通まつり、三鉄車両基地まつりを開催。 R 6 来場者数：800名（R 5：800名） (2)三陸鉄道企画列車の運行 ・三陸鉄道において、観光列車やイベント列車の運行を行った。 （ウニ列車、こたつ列車、かいけつゾロリ列車、女子が楽しむ日本酒列車等）		○
	②「岩手ビッグブルズ×三陸鉄道」企画の実施（市・鉄道事業者） ・宮古市内で開催された「岩手ビッグブルズ」のホームゲームに合わせ、「岩手ビッグブルズ×三陸鉄道」の企画を実施。 ※内容：企画切符（往復切符＋グッズ抽選券）の販売 岩手ビッグブルズ応援列車の運行 宮古駅から試合会場（宮古市民総合体育館）までのシャトルバスの運行 ※R 6 企画切符販売実績：56名 R 6 シャトルバス利用者数：105名		○
	③公共交通に関する情報発信（市） ・公共交通マップを作成し、駅や公共施設などで配布した。		○
	④市広報誌での情報発信（市） ・市民に公共交通の現状や各種施策を周知するため、市広報誌で公共交通の特集記事を掲載。		○
	⑤【拡充】乗り方教室の実施（交通事業者・市） (1)路線バス乗り方教室の実施 ・公共交通まつり開催日に、路線バスの乗り方教室を実施。 R 6 参加者数：38名 (2)【新規】中学生フリー定期券に合わせた乗り方教室の実施 ・中学生フリー定期券交付実証事業に合わせ、希望する学校で乗り方教室を実施。 R 6 実施校：2校		○

施策	実施内容	実施年度	
		R 5	R 6
【施策3】 公共交通の 認知度・理 解度を高め る	⑥【新規】山田線セミナーの実施（市） 山田線の歴史と沿線の魅力、車窓の楽しみ方を解説するセミナーを実施。 ※R 6実績：2回実施 宮古市：9月実施/参加者数15名 盛岡市：2月実施/参加者数15名	 	○
	⑦【新規】記念事業に合わせたPR活動の実施（鉄道事業者、市、県、盛岡市） (1)山田線（盛岡駅～宮古駅間）開業90周年事業 - 開業日に合わせ、盛岡駅で山田線のPR活動を実施。（R6.11.6実施） - 駅カードを作成し、山田線宮古駅利用者に配布。 ※配布期間：R6.9.28～R7.3.2 (2)三陸鉄道開業40周年記念事業 - 記念式典の開催。（R6.4.13開催） 40周年記念列車の運行。沿線で歓迎やお振舞を実施。 ※運行日：令和6年4月1日		○
	⑧台湾でのPR活動（鉄道事業者、市） - 台湾旅行博 日本東北遊楽日「だいすきとうほく」に、宮古市ブースを出展し、観光PRと合わせ三陸鉄道のPRを実施。（R6.12.7、8開催） ※イベント来場者数：95,765名 - 東北観光セミナー商談会への参加や台湾旅行会社営業訪問活動を実施。 ※訪問会社：6社		○ ○
	⑨【新規】地域団体との意見交換（市） 地域団体へ公共交通の維持確保の取り組みを説明し、意見交換を実施。 ※開催回数：1回/参加者数：20名		○

目標指標に対する評価

- ・ R 5. 5 月に新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置付けが 5 類に移行したこともあり、公共交通機関の利用者は回復傾向にある。しかし、交通事業者は燃油・物価高騰なども影響もあり依然厳しい経営状況にある。利用拡大向け、より一層の取り組みを行っていく。

主な取り組みの成果	今後の課題・方向性
・ 宮古駅構内こ線橋へのエレベーター設置により、利用者の利便性向上が図られた。 ・ バスロケーションシステムや三鉄アプリの運用、運行情報のオープンデータ化により、利用者に分かりやすい情報の発信につながっている。 ・ 地域連携 IC カード「iGUCA」導入により、利便性向上が図られた。チャージ時の福祉ポイントの付与により、普及促進や路線バスの利用促進が図られた。 ・ 公共交通利用者に対する補助制度や利用促進イベントの実施により、沿線住民の乗車機会が増え、利用促進に繋がった。 ・ 利用促進ツアーや企画列車の運行などにより、沿線住民の乗車機会の創出が図られた。 ・ 中学生フリー定期券交付実証事業により、中学生の乗車機会の創出や乗車方法の習得につながった。	・ 八木沢・宮古短大駅の利用環境の改善を図るため、河南地区側からのアクセス路整備を行う。 ⇒ R 6：用地取得、R 7：整備工事 ・ 利用者の減少に歯止めをかけるため、実効性のある利用促進策を検討する。 ・ 多くの方に利用いただけるよう、沿線の情報を含め、情報発信を強化する。

門馬地域送迎チームの利用状況①

資料 1 - 1



○利用実績

	R4(5月～3月)	R5	R6	前年同月比
稼働日数	45日	57日	97日	+40日
利用者数	294人	360人	602人	+242人

○地域の声

- ・月1回のにこにこ茶々は、送迎がないと参加できないのでとてもありがたい。
(毎月10名～12名が利用)
- ・老人クラブは全員送迎チーム利用会員となり、行事の時に利用している。
会長が一人で送迎していた時は申し訳なく思い、何かお礼をしなければと気にかかったが、送迎チームに対応してもらうことで気軽になった。
- ・通院時106急行バスを利用するが、バス停まで歩くのが大変なのでとても助かっている。
全便停車するバス停まで送迎してもらえることで、不要に盛岡にいらなくなかった。
- ・郵便局までの利用が迷惑かと思ったが、顔見知りの運転手が乗せてくれ、利用券を購入してやり取りするので気軽に感じた。
- ・「免許を返したら、利用するかな。●●さん、その時は頼むよ。」との会話があちらこちらで聞かれ、地域の話題になっている。
- ・お礼を気にせず頼めるので、いいです。

門馬地域送迎チームの利用状況②

○活動員の声

- ・ お世話になっている人への恩返しだと思って活動している。
- ・ 自分が年を取ってから、利用できるといいなあとと思いながら活動している。
- ・ 頼られていると感じて、やりがいを持って活動している。
- ・ 106急行バスへの送迎で、迎えするときバスが遅延した際に待機しないといけないのが気になる。



グリーンスローモビリティ実証運行について

1 運行までの経緯

令和4年度	・復建調査設計株式会社による環境省事業「グリーンスローモビリティの導入にかかる調査・普及促進事業」の対象地区に宮古市が選定 ・導入候補地区の検討、鍬ヶ崎地区・田老地区での試走 ・住民アンケート、庁内関係課・関係者ヒアリング
令和5年度	・鍬ヶ崎地区・浄土ヶ浜園地・田老地区での実証運行
令和6年度	・田老地区での実証運行

2 実証運行の実施概要

グリーンスローモビリティによる生活需要・観光需要の実用性を検証する実証運行を行った。

- 運行地区 R5：鍬ヶ崎地区、浄土ヶ浜園地、田老地区
R6：田老地区
- 運行目的
 - ①鍬ヶ崎地区 → 生活利便性の向上
 - ②浄土ヶ浜地区 → 観光客の回遊性の向上
 - ③田老地区 → 生活利便性の向上、賑わいの創出
防災・震災伝承
 - ④市内イベント → 普及啓発
- 利用車両 YAMAHA AR-07
・7人乗り
- 利用料金 無料



3 実験結果

(1) R5利用実績

類型	運行区域・内容	運行日数	乗車人数	1日平均	利 用 傾 向
生活利用	鍬ヶ崎地区	5日間	45人	9.0人	・バス停までの乗継利用は0人
		4日間	73人	18.3人	・水曜市開催に合わせた運行
	田老地区	6日間	55人	9.2人	・買い物利用が約4割。その他は郵便局、銀行等の利用
観光利用	浄土ヶ浜園地	7日間	80人	11.4人	・ビジターセンターから奥浄土ヶ浜（レストハウス）までの周遊が利用者に好評
	田老・道の駅周辺（学ぶ防災）	11日間	55人	5.0人	・学ぶ防災として、道の駅から田老観光ホテルなどを巡る約1時間のコースが利用者に好評
イベント利用	うみねこ丸運行開始1周年	2日間	約500人	-	・イベント会場内を運行
	脱炭素フェスタ	1日間	137人	-	
	選挙での送迎	1日間	57人	-	・鍬ヶ崎地区

(2) R6利用実績

類型	運行区域・内容	運行日数	乗車人数	1日平均	利 用 傾 向
生活利用	田老地区	18日間	206人	11.4人	・買い物利用が約半数。他に郵便局、銀行の利用が多い ・三王団地から鉄道への乗り換えの利用も見られた ・9月は1日の利用者が20名を超える日もあった
観光利用	田老・道の駅周辺（学ぶ防災）	10日間	35人	3.5人	・三鉄利用者（新田老駅降車）のガイドに活用された ・7月は団体利用が多くグリスロの活用が困難であった



4 利用者の声

- ・ 有料でも利用したい。 ・ グリスロに合わせて予定を立てた。便利だった。
- ・ 道の駅から三王団地まで帰るのが大変。グリスロの運行があるとたくさん買い物ができる。
- ・ 乗り降りしやすくお年寄りに非常に良い。 ・ 開放感があり、涼しかった。
- ・ これからも運行してほしい。大変助かっている。

5 本格導入への課題

- ・ 持続可能な事業スキーム（有償化の検討）
- ・ 運転手の確保（交通事業者へ委託・地域住民の活用）
- ・ 既存事業者との調整（バス・タクシーの運行との役割分担）
- ・ 車両購入等の財源の確保（車両本体・車庫・充電設備等）
- ・ 地域住民への周知



R 6 中学生フリー定期券交付実証事業について

資料 1 - 3

(1) 事業概要

【実施期間】 令和6年7月1日から9月30日の3ヶ月間

【対象交通機関】 三陸鉄道、岩手県北バス、地域バス（田老・新里・川井）

(2) 利用実績

	7月	8月	9月	合計
岩手県北バス	1,078人	1,227人	906人	3,211人
三陸鉄道	80人	226人	180人	486人

(利用傾向)

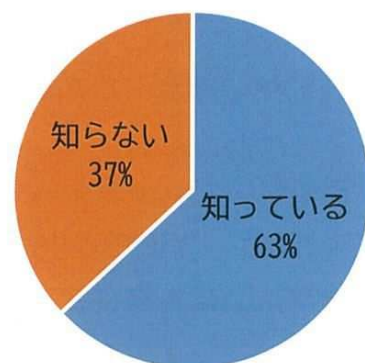
- ・休日を中心に利用が多いが、平日の通学の利用も見られる
- ・学校行事（宿泊研修、職場体験、高校体験入学など）に多く利用
- ・地区に偏らず利用がみられる、従前の利用状況と比較すれば、ほぼ新規利用と想定される

(3) アンケート結果（市内中学生を対象に実施）

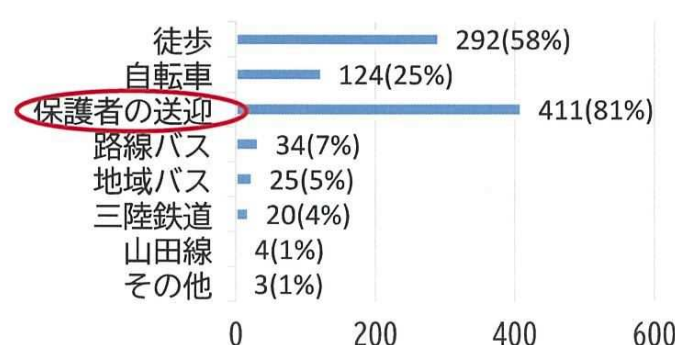
(事前アンケート)

- ・鉄道・バスの乗り方を約4割の生徒が知らない。約3割がバス・鉄道を利用したことがないと回答。
- ・移動手段をみると、「保護者の送迎」が主となっている。バス・鉄道の利用は少ない。
- ・公共交通を利用しない理由として、「保護者の送迎」のほかに「利用方法が分からない」という回答も多くなっている。

【公共交通の利用方法】



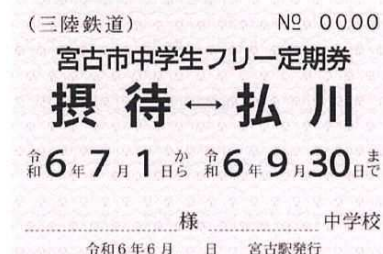
【休日の移動手段】（複数選択可）



【公共交通を利用しない理由】（複数選択可）



▲ICカード「iGUCA」（岩手県北バス）

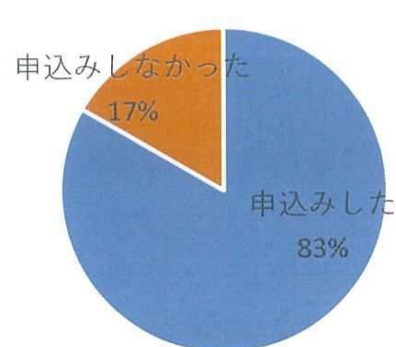


▲紙定期券（三陸鉄道、地域バス）

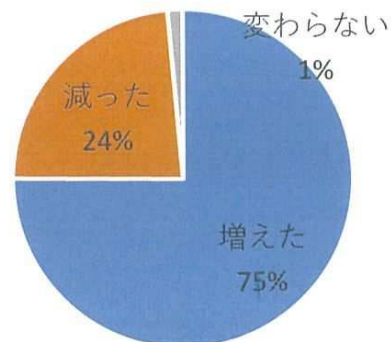
（事後アンケート）

- ・フリー定期券の実施期間中、生徒の75%がバス・鉄道の利用が増えたと回答。
- ・利用目的は、「遊び・買い物」が最も多く、次いで「体験入学」、「市外にお出かけ」となっている。
- ・約半数が「外出の機会が増えた」と回答。「乗り方を覚えた」という回答も多かった。中学校卒業後、約4割が定期券でバス・鉄道を利用したいと回答。

【中学生フリー定期の申込】



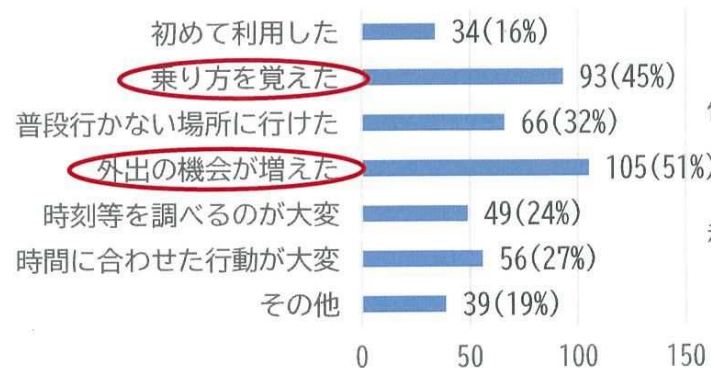
【期間中の公共交通の利用頻度】



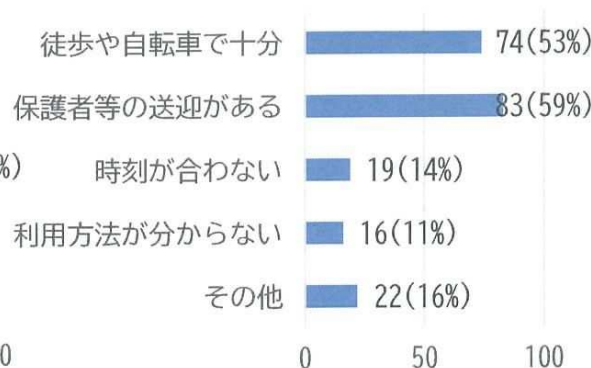
【利用目的】



【利用した感想】



【利用しなかった理由】



【卒業後の公共交通の利用意向】



（4）検証結果

- ・「外出の機会が増えた」「乗り方を覚えた」という声が多く、乗車方法の習得や乗車機会の創出に効果があった。
- ・乗車方法の習得により、将来的なバス・鉄道の利用が期待される。
- ・「利用方法が分からない」「時刻等を調べるのが大変」という声もある。引き続き利用方法等について情報発信を行う。
- ・来年度に向けて、事業の実施期間や時期の検討を行う。併せて、JR山田線を加えた実施を検討する。